

教室を飛びだして



八戸市美術館 学校連携プロジェクト

全面建て替えにより、2021年11月にリニューアルオープンした青森県八戸市美術館。
施設の一新を機に、市内の小学校、中学校、高等学校が美術館と連携し、
アートに関するさまざまな事業に取り組む「学校連携プロジェクト」が始動しました。
世代や職種の枠を超え、地域一丸となって行われている活動をご紹介します。

小・中・高校生が合作

「虹色の大樹」が高く掲げられる
と、歓声が上がった。

2021年8月3日、八戸市美術館。
市内の中学校・高校に通う美術部員
約40人が、半日かけて巨大絵画の共
同制作に取り組んだ。

半透明のシートを9枚つなぎ合わ
せた「キャンバス」は、縦10.8、横
5.4メートル。高校生が左半分、中学
生が右半分の色を塗った後、事前に
小・中学生が描いた「八戸の実」(ウ
ミネコや八幡馬、せんべい汁といっ
た八戸名物を描いた絵)を周囲に縫
い付け、大樹の絵を完成させた。

参加した中学生は、天井から吊る
された作品を仰ぎ見ながら、「あの色、
私たちがやったところだ！」と達成
感にあふれた様子。他の高校生の一
人は「中学生の配色が生き生きして
いて驚いた」と話していた。

先生、生徒双方にプラス

1986年に開館した旧八戸市美術
館は、老朽化などを理由に2017年
に閉館し、全面建て替えを行うこと

となった。

リニューアルオープンをきっかけ
に、組織の枠組みを超えた連携を深
めようと、2020年9月、小・中・高
校の図工・美術などの教諭や美術館
学芸員、専門家による「学校連携プ
ロジェクトチーム」(以下PT)が発足。
初回の打ち合わせではそれぞれの自
己紹介から始まり、各校で抱えてい
る課題や悩み、今後PTでやってみ
たいことなどを話し合った。

「精力的な方が多く、美術館から
お願いするというよりも、自ら手を
挙げてくれた先生がほとんどでした」
と語るのは、同館学芸員の篠原英里
さん。定期的に開催している打ち合
わせでは毎回、たくさんの意見が飛
び交うという。

学校では図工や美術の授業時数が
減り、美術教諭の数も減っている中、
PTの活動により、先生どうしの横の
つながりも生まれた。また、生徒に
とっても、美術館との連携や世代を
超えた交流が、創作へのよい刺激に
なっているという。PTの取り組みが、
先生と生徒、双方にとってプラスの
効果を生んでいるのだ。

異世代交流で刺激

2021年度はこうした合同制作の他、
小・中・高校生が一人一つ、同じテ
ーマで作品をつくるワークショップ
も開催。テーマは「こころ」、新聞紙
を主な素材とし、児童・生徒約70人
が作品づくりに取り組んだ。

完成後はグループごとに鑑賞会を
行い、高校生が司会を担当。中学生
が「小学生の想像力はすごい」と話
せば、小学生は「中高生は心の表と
裏を表現している人が多かった」な
ど話し、互いの発想や表現の違い
に学ぶところが多かったようだった。

現在は、中高生が作家や美術館ス
タッフなどに取材し、新聞を手づく
りする「美術館新聞部」の活動も進
行中だ。

今後は、これまでの活動を振り返
ったり、やってみたいことを気軽に
相談したりできるよう、館内に「ラ
ボ」というスペースを設ける予定。
「全員で楽しみながら活動してい
きたい」と篠原さん。枠組みを超えた
新しい取り組みが、確実に根を張り
つつある。



放課後 第20回 A R T



- 1/八戸市内の小学生、中学生、高校生が連携して制作した巨大絵画。
- 2/巨大絵画の色塗りは、中学生と高校生で
左右半分ずつ分担して行った。
- 3/小学生、中学生、高校生が「こころ」という同じテーマで
作品制作に取り組んだワークショップ。
鑑賞会では、世代の異なる参加者どうしで感想が交わされた。
- 4/ワークショップ後のPTでの振り返り。
全体の打ち合わせは、2か月に1回程度開催している。